

製造シナリオのデジタル検証環境構築のための 動的製造装置モデルのカatalog化に関する国際標準化

事業概要

継続：1年目

標準化分野

事業略称	動的モデル	期間	2020～2022	予算元	野村総研	事業形態	再委託
概要	<p>新国際標準ISO 16400「仮想製造システムのための動的製造装置モデル」はコンピュータ内に仮想製造ラインを構成し、製造ライン上の事前検討、計画実行などを支援する情報環境の構築に必要な国際標準を開発している。</p> <p>本事業は、Part1（全体概要）、Part2（動的製造装置モデルの形式的構造と構成規則）およびPart3（動的製造装置モデルの使い方と提供サービス）の国際標準化に引き続き、Part4（仮想製造ライン構成に向けたユースケースとe-ライブラリ・サービス・インターフェース(仮題)）の国際標準規格開発を進める。さらに、国内においては試験研究を実施し、本提案の実現性を確認するとともに、その普及手段についても検討する。国内では試験研究を実施し、提案するフレームワークの試作を行ない、本提案の実現性を確認し、更にその普及手段についても検討する。</p>						
ゴール	ISO 16400(仮想製造システムのための動的製造装置モデル)の各Partの国際標準を開発する。						

2020年度 計画(左)／活動結果(右) [予算：14.8百万円／決算：7.7百万円]

動的製造装置モデルの利用に関する国際標準化提案準備	Web会議を利用して計画に沿って実施中 □ビー活動は、COVID-19の影響で今後実施予定
動的製造装置モデルに関する国際標準化 (Part1,2,3)	Part1のISが発行（9/21） COVID-19により、Part2,3は中断中であるが、WDの審議は、メール・リモートで継続
動的製造装置モデルに関する技術調査	技術調査項目を決定し、KT Systemにて調査実施

ISO制定ステップ

Step1提案：NP

Step2作成：WD

Step3委員会：CD

Step4提案：DIS

Step5承認：FDIS

Step6発行：IS

製造シナリオのデジタル検証環境構築のための 動的製造装置モデルのカタログ化に関する国際標準化

2020年度成果

■ 成果

ISO/TC184/SC5/WG13国内委員会を開催（計5回）し、規格開発計画の審議を実施した。

ISO 16400 Part1のISが発行された（9/21）。

■ 今後の見込み

COVID-19の影響で、本年6月まで対面のミーティング禁止がISOより指示されている。メールによる書面審議、Web会議の開催で規格開発を進める。

■ ISO 16400 Part4

2015年度からISO 16400

Part1：概要・構成

Part2：装置モデルのe-ライブラリ規定

Part3：装置モデルの記述形式

の規格開発を実施してきたが、2020年度より、上記規格の実装・利用のための

Part4：仮想製造ライン構成に向けたユースケースとe-ライブラリ・サービス・インターフェース（仮題）の規格開発を開始した。

